

## まえがき

本書は、平成16年度および17年度にアジア経済研究所で実施された「西・中央アジア諸国における亀裂構造と政治体制」研究会の最終成果である。これまで開発途上国の政治社会の分析の多くは、国内の民族、宗教、地域的差異を体制の不安定と結びつけて論じてきた。しかし、トルコ、イエメン、シリア、カザフスタンではこれらの差異が存在するものの、各国の民主主義体制または権威主義体制は比較的安定している。本書はこれらの国々において、上述の社会的差異が政治体制をどのように規定し、他方、政治体制はその社会的差異の潜在的な分裂効果をどのように減殺しようとしているのかを焦点にしている。

分析では社会的差異のうち組織化により固定化したものを亀裂と定義し、亀裂と政治体制との関係を上記4カ国について考察した。従来、亀裂の概念は先進民主主義国の政党制の分析にもっぱら用いられていたが、開発途上国における多様な社会的差異のうちどれがその国の政治において大きな影響を持つかを明らかにするのにも役立つからである。そのため本書で取り上げた亀裂も中心対周辺、地方間対抗、民族的多数派對少数派など、国により異なる。このように亀裂概念を用いることで国・体制横断的な比較が可能になり、結論として、(1)政治体制を安定的に維持するうえで、亀裂構造を政治体制に反映させる方法とさせない方法の2つがあること、(2)ただし、「反映」の意味は体制が民主主義か権威主義かで異なることを導いた。

本書の出版では多くの方々にお世話になった。まず、立教大学の中田瑞穂氏より中東欧の亀裂構造と政党制について、上智大学の岸川毅氏より一党支配型権威主義体制とその民主化について、アジア経済研究所の中村正志氏（オブザーバー）よりマレーシアにおける政治制度について、貴重な講義と教

示をいただいた。オブザーバーの望月克哉氏，窪田朋子氏，高橋理枝氏も，研究会の議論で重要な論点を提示された。また，内部および外部査読者には原稿を非常に丁寧に読んでいただき，本質的かつ建設的なご指摘をいただいた。ここに記して感謝したい。

2006年 8 月

編 者